

< 研究成果の紹介 >

**緑化用ツツジとサツキの種間交雑による
新品種‘伊勢路紫’‘伊勢路紅’‘伊勢小町’の育成**

農業研究部園芸グループ

1. 成果の内容

ツツジ・サツキ類は、緑化用として4月下旬開花のクルメツツジ、5月上旬開花のヒラドツツジ、6月開花の三重サツキが広く植栽されています。しかし、5月中旬以降には花が途切れる状況にあり、これらの中間時期に開花し、新しい花色をもった3品種をツツジとサツキの種間交雑により育成しました。

(1) 育成経過

‘伊勢路紫’及び‘伊勢路紅’は、‘薩摩紅’(サツキ)を子房親に‘小壺’(クルメツツジ)を花粉親とし、‘伊勢小町’は、‘長崎熊野’(サツキ)を子房親に‘小壺’を花粉親として交配し、選抜した新品種です。

(2) 3品種の特徴

‘伊勢路紫’は、平均開花日が5月9日で、樹姿は広株立状で三重サツキと同様ですが、秋冬期の紅葉程度はやや浅く、濃赤色を呈する三重サツキに比べ、緑色が残った状態で春を迎えます。また、花は鮮紫ピンク色、シングル、開いた漏斗状で三重サツキと同形ですが、花径はやや大型です。用途は、集団植栽や庭園用に向きます。

‘伊勢路紅’は、平均開花日が5月11日で、樹姿は広株立状で、紅葉程度は秋冬期にやや浅いものの、厳冬期には赤色を呈します。花は明紫赤色、シングル、筒状漏斗形で花冠上半はやや細くシャープ

印象を受けます。用途は、集団植栽や庭園用に向きます。

‘伊勢小町’は、平均開花日が5月9日で、樹姿は半球形で徒長枝の発生は少なく、丸みを帯びた姿となり、自然に鑑賞性の高い樹姿となります。紅葉程度は秋冬期にやや浅いものの、厳冬期には赤色を呈します。花はシングル、多花性、鮮紫ピンク色ですが、外観では赤色がやや濃い傾向に見られます。花径は、やや小型の筒状漏斗形で、花冠上半がやや細くシャープな印象を受けます。用途は、集団植栽や庭園用、さらに鉢物用にも利用可能です。

2. 技術の適用効果と適用範囲

従来のツツジ・サツキと開花時期が異なるため、本3品種を組み合わせて植栽することにより、4月下旬から初夏にかけて花を楽しむことが可能となります。

3. 普及・利用上の問題点

三重サツキに準じた栽培法が適用できるので、汎用性が広がります。

三重サツキと同程度の強健性を有します。

なお、これら3品種は、平成13年10月12日付け農林水産省告示第1372号において、出願公表されました。

(千田泰義)

表 育種系統の特性

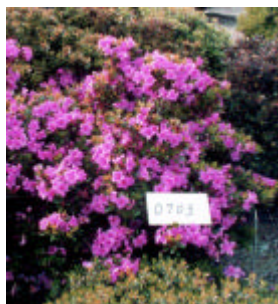
品 種 名	子房親×花粉親	開花期	花 色	紅 葉 程 度		耐 乾 性
				11月下	2月上	
伊勢路紫	薩摩紅×小壺	5月 9日	9205(鮮紫ピンク)	2	2	中～強
伊勢路紅	薩摩紅×小壺	5月11日	9706(明紫赤)	4	4	中～強
伊勢小町	長崎熊野×小壺	5月 9日	9705(鮮紫ピンク)	3	4	中～強
三重サツキ(対照)		6月 5日	9704(鮮紫ピンク)	3	5	強

開花期：50%開花時期(5年間の平均)

花色は、日本園芸植物標準色表(JHS)による。

紅葉程度：1(緑)～5(濃赤) (5年間の平均)

耐乾性：三重サツキを「強」とした場合



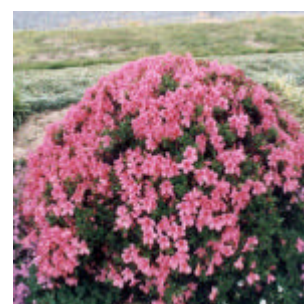
伊勢路紫



伊勢路紅



伊勢小町



三重サツキ